

2

MassCore



Pyramix 6.0

DIGITAL AUDIO WORKSTATION



Virtual Transport
NETWORKED SYNCHRONIZATION SYSTEM



MassCore

MassCoreの概要

MassCoreは、DSPボード (Mykerinos) を増設せずにソフトウェアのみでPyramixの処理能力・パワーを増強できる極めてパワフルなソフトウェア・オプションです。

Mykerinosカードのソフトウェア・ライセンスとして提供され、Core 2 Duo以降のマルチコアCPUを搭載したPyramixのPC環境において、オペレーティング・システムに依存しない、真のリアルタイム・エンジンを実現します。

MassCoreオプションは、オペレーティング・システム (OS) によってもたらされていた「レイテンシー」と「処理能力の制限」を打破し、Pyramixに大規模な256チャンネルのバス構造と16～256のスケラブルな入出力チャンネルを提供します。

MassCoreは、以下のような機能を有効にします：

- 大規模なミキサー構成
- 低レイテンシー設定 (Extra 2.66ms および Ultra 1.33ms)
- VS3およびVSTプラグインのディレイ補正
- バスおよびAUXへのVSTインサート機能
- VSTのマルチチャンネル対応
- 外部インサート(フィジカル・エフェクト)
- 外部デバイスのモニターおよびトークバック

Windows XPにおけるブートの選択

Windows XP Proを使用されている場合、Windowsのブートが始まる前段階において、**P.O.S.T** (Power On Self Test) 画面の表示の後にブートの選択画面が現われます。

この画面では、以下の選択ができます：

“Microsoft Windows Vista (or XP Professional)”

および

“MassCore Pyramix”

“MassCore Pyramix” を選択して下さい。

Coreロード・インジケータ

MassCoreが動作しているシステムでは、DSPインジケータに代わって2列のCoreロード・インジケータがステータス・バー上に表示されます。

Core: xxx% または **Core*: xxx%**

* は、専用モードの印です。

Coreロード・インジケータのパーセンテージは、**MassCoreロード(リアルタイム & バックグラウンド)** または **VST Coreロード** のいずれかが高く消費されている方の数値を表示します。以下のスクリーンショットの場合、MassCoreよりもVST Coreのロードの方が高くて、“**Core: 100%**”はVSTプラグインの為のパワー(リソース)が不足している状況を示しています。

MassCoreリアルタイム・ロード

(**明るい緑色**のバー, 高負荷の時は**オレンジ色**, **赤色**はオーバーロード):
リアルタイムプロセスのためのMassCoreロード状況を示します。

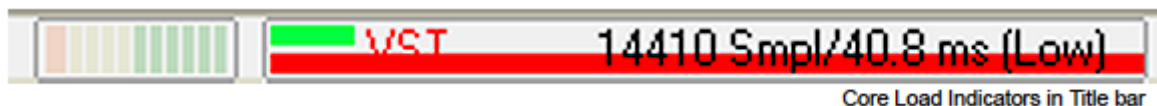
MassCoreバックグラウンド・ロード

(**暗い緑色**のバー): バックグラウンド処理のためのMassCoreロード状況を示し、MassCoreリアルタイム・ロードのインジケータの横に表示されます。これは、Algorithmixプラグインを使用する場合などに使用されます。

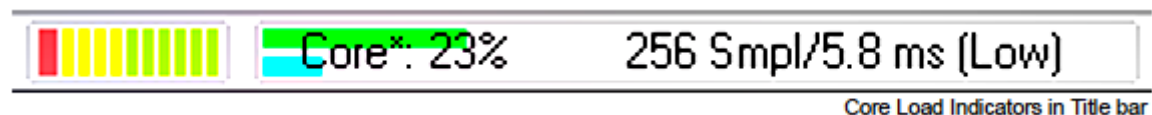
VST Coreロード

(**青色**のバー, 高負荷の時は**オレンジ色**, **赤色**はオーバーロード):
VST処理のためのVST Coreロード状況を示します。

定期的にVST Coreロードの表示がドロップしているときは、以下のスクリーンショットのように瞬間的なピークが起こっている可能性があります:



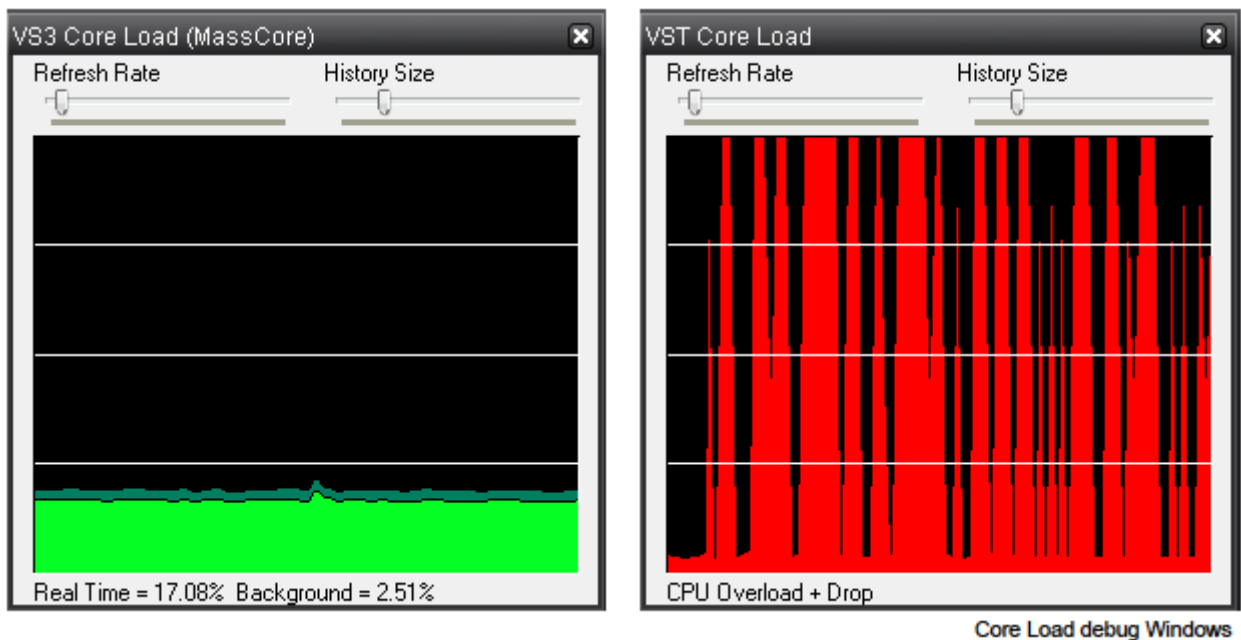
それとは対称的に、以下のスクリーンショットは100のトラックと入力ストリップを持つプロジェクト構成で、僅かにVSTプラグインを起動しているときのCoreロードを示しています:



この場合、**VST Coreロード**よりも**MassCoreリアルタイム**の方が高くロードされているというインジケータの見方になります。

上記2つのスクリーンショットにおいて、左側のバーグラフについてはディスクのバッファを示しています。

さらに詳しく情報を得たい場合は、メーター上でShift + Clickをして下さい。
以下のようなCoreロードのデバッグ画面が開きます：



もし、上記スクリーンショットのようにVST Coreロードが表示される場合は、VST Plug-ins engine Latencyの値を増やすことをお勧めします。

大容量バッファを必要とするようなVSTプラグインを効率的にサポートするために、All Settings > Hardware > MassCoreページでVST Plug-ins Engine Latenciesのバッファ・サイズを4096smpl (サンプル) 程度まで増やしておくことを推奨します。

Note: パラメーターの調整は、プロジェクトを閉じた状態で行って下さい。

重要! 動作の低下が生じた場合、Coreインジケータが点滅します。リセットするには、インジケータの上をクリックします。

重要事項!

グラフィックの描画速度などに不具合が生じるのを避けるため、Coreリソースの使用率は65~70%以上にならないよう作業される事をお勧めします。

Coreロード・インジケータには、3つのカラー・ゾーンが設定されています：

0%~65% **Greenゾーン** (快適なパフォーマンス)

65%~75% **Orangeゾーン** (適度なリスク)

75%~100% **Redゾーン** (パフォーマンスの続行が危険な状態です。グラフィックの描画速度などにも影響が起こり始めます)

MassCoreのレイテンシー・モード

Mykerinos/Latency (Note1)	Low Latency (5.33ms)	Extra Low Latency (2.66ms)	Ultra Low Latency (1.33ms)
MYK-MB1	V		
MYK-MB2	V		
MYK-MB3	V		
MYK-MB4	V		
MYK-MB5	V		
MYK-X30	V	V	V
MYK-X50	V	V	V

Note 1: レイテンシー・モードの設定は、相対的なパフォーマンスに影響します。